

一特集一 閲覧室の現状と問題点 (その3)

医学図書館

医学図書館は昭和40年、部局図書館としてはめずらしく独立の建物として新築された。それだけに各方面から注目されたが7年を経過した現在、初期の計画とは及びもつかない種々の問題をかかえての図書館活動の毎日である。しかし、今回は標記の閲覧室の現状と若干の問題点を指摘するにとどめたい。

いうまでもなく、自然科学関係の図書館は最新の資料・情報をいかに速く利用者(教官・研究者)に提供出来るか、ということにつきると思われるが、一方、学部学生には単行書を中心に系統的読書の場も必要である。

医学図書館は3階、書庫4層の建物で、1階が雑誌閲覧室、2階が単行書閲覧室になっている。書庫は全面開架で、1層に1960年以降の洋雑誌、昭和25以降の和雑誌を収容し、2層に1959年以前の洋雑誌A—B、昭和24年以前の和雑誌、3層に洋雑誌C—Zを配架している。1階の雑誌閲覧室には新着雑誌を展示する雑誌架と40座席の閲覧机がある。2階の単行書閲覧室には閲覧室に全単行書を配架し48座席の閲覧机がある。新着雑誌は到着後1カ月を経過したものは総て貸出し(3日間)をし、またゼロックスによる複写サービスを行なっている。単行書についても同様である。

以上のような現状から問題点を指摘するならば、①雑誌閲覧室はカウンターと書庫が両側にわかれていたため、利用者は入口から閲覧室の中央を通って書庫に行くことになる。同様に係員も調査や納庫のため閲覧室をよこぎること。②全面開架方式のため書庫・雑誌架の図書の配列が乱れやすい。③医学図書館建設当初の計画である雑誌の集中化が徹底していないため、特に2層・3層の古い年代の雑誌の整理が充分に行なわれず利用者に不便を与えている。④医学部・病院の教室図書室所蔵の雑誌(単行書も)の目録が出来ていないため、カウンターでの文献調査に不便をしている。⑤最後に、立地条件から医学図書館は道路に面しているため自動車等の騒音も悪条件をつくりだしている。

医学図書館は学内の図書館活動の他に、医学図書館協会のもとに活発な相互貸借業務を行なっている。そのために、学内サービスの向上、さらに学外協力のためにも館内整備を急がなくてはならない。しかし現状を見るに種々の問題をかかえ、悪条件の中での図書館活動を行なっているのが現状といえよう。

—————ご存じですか

農学部水産学科図書室の移転について

本年4月、農学部水産学科は舞鶴市から京都へ移転することが決まり、すでに農学部新館の一部に移転を完了しました。

水産学科4講座は、昭和22年(1947)4月、新設が認められ、舞鶴市の旧軍関係施設を譲り受けて発足したもので、京都市から遠く離れ舞鶴市の中心からさらに2軒も離れた海岸地で約25年の間、研究が進められていたわけです。水産学科図書室も学科の新設後まもなく設置され、遠隔地という不便さのなかで、学生・教官のため奉仕してきました。しかし、この度の移転を機会に、水産学科図書室は農学部図書室と合併することになり、水産学科図書室の図書資料の全部を農学部図書室で保管することになりました。なお、水産生物学講座の雑誌も同時に、農学部図書室で保管することに決定しました。

こんど、水産学科の図書を利用されるときはご注意ください。もし、わかりにくいことがあれば、農学部図書室(学内TEL 6016)におたずねください。